

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア植田 Aユニット		
所在地	愛知県名古屋市長区植田1丁目1807		
自己評価作成日	令和5年10月7日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ1人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声がけをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように生活空間づくりと環境を整え四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援させて頂いています。また医療面では、隣接するゆうファミリアクリニックとの連携を密に取り24時間体制で安心して頂けるよう健康管理を行っています。口腔面でもワイワイデンタルクリニックの医師、歯科衛生士と連携し口腔ケア及び維持管理を行っています。

#### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kan=true&JigyosyoCd=2371601150-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2371601150-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

マンションや戸建て住宅が建ち並び、交通の利便性もよい街中に事業所が位置し、開設以来18年を迎える。道を隔て法人本部と法人の医療機関がある。鉄筋4階建てのホームは2ユニットで、1階と4階に各ユニットのリビングダイニングがあり、2階と3階が居室となっている。入居者はエレベーターを自由に使ったり、職員に見守られながら各階を行き来し生活をしている。4階には広いベランダがあり、天気の良い日にはベランダに出て周りの景色を眺め、お茶を楽しむこともある。天気の良い日には隣接する公園へ出かけ、四季折々の木々の変化や街並みの季節の移り変わりをベンチに腰かけて眺めながら楽しんでいる。医療法人の特色を活かし24時間体制の医療提供と提携医の歯科医や歯科衛生士による口腔ケア、訪問看護、リハビリやマッサージなどで入居者の健康管理を行い、一人ひとりが出来ることやりたいことを見極め、ゆったりと楽しい生活が継続して送れるよう支援に取り組んでいる。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和5年11月22日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 Aユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を施設内に掲示しスタッフ間に意識付け、実践に繋げています。また当施設では、個々にゆっくり、のんびりとしたその人らしい生活ペースで暮らしを送れるように努めています。	法人の理念を玄関先とリビングに掲示している。月1度のミーティング時に日々の支援と意識づけを確認し、掲げた理念に結び付く支援が実践できているのか振り返りを行っている。理念を共有し個々の状態に合わせた支援に取り組んでいる。	業務に入る前の心構えや終了した時の振り返りが出来るように、法人の理念と別に、日々のケアに対する行動指針として職員と共に年間の目標を考え掲げて支援に繋げていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだですが、少しずつ散歩や買い物、地域の行事にも参加し、施設だけの生活にならないように、交流を図っています。	法人理事長が町内会に加入し、町内会議に参加している。また回覧板や掲示板で地域の情報を入手して。町内の行事も徐々に再開しているので、催しもの内容を選択しながら参加する様になっている。近隣の散歩や公園で行き交う方との挨拶を交わし地域の一員としての繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記を実践し、少しずつ声をかけてくださる人や関心を示してくださる人も増えてきました。今後は施設内の行事等を通じもっと地域との関わりを深めていけるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族様利用者様からの意見や要望反映できるように努めています。いきいき支援センターの職員にも参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に生かせるように努めています。	入居者や家族、民生委員、包括支援センター職員、事業所職員の参加を得て2か月に1回開催しているが、民生委員、いきいき支援職員の参加は少ない状況となっている。事業所の運営状況や活動、などの報告説明を行い、事前に聴取した意見やアドバイスは運営やサービスの向上に活かしている。。会議録は家族へ郵送で届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との連携の元、相談、指導等を受けながら、実情やサービスの取り組み、改善点に関しても協力関係を築いています。	介護更新申請や事業所内の相談など必要時に窓口へ出向いている。相談や指導を受ける事で支援の向上に繋がっている。市からの研修案内が届くので、現状は法人の代表が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しておりますが、状況に合わせ解錠しています。身体面では利用者様の安全を考慮しご家族様の同意を得た上で最小限で行い、日々の業務のなかで話し合い安全なケアに取り組んでいます。	3か月に1回、身体拘束適正化委員会を開き現状を振り返りケアの状況を確認している。身体拘束マニュアルを整備し、月1回のミーティングでは入居者一人ひとりの状態の報告と拘束にあたる言葉やケアについて確認している。エレベーターでの移動は、自分で自由に移動できる方、車椅子の方など、それぞれの方に合わせた配慮や対応を話し合いケアに活かしている。玄関は安全の為施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに乗っ取りスタッフ間で互いに注意を払い、業務に当たりコミュニケーションを大切にし、ミーティングや法人の勉強会で学ぶ機会を設け予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等が研修にいき、必要に応じて支援していきようとしています。法人での勉強会を通して、職員一人ひとり理解し支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び支援専門員より、当施設の方針や内容等について十分説明し納得していただいた上で、契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎の運営推進会議の開催時や面会時等にご家族様からの意見や要望を伺う機会をもうけ運営に活かしています。	入居者からは日々のケアの中で会話や行動から思いや意向を聞きケアに繋げている。家族からはコロナの状況を確認しながら、面会時や電話などで意見を聞き、運営やケアに活かしている。毎月の「ふぁみりあだより」に行事の様子の写真やコメントを添えたり、施設からのお知らせなど情報を記載して家族に安心を届けている。ご意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングや臨時のミーティングを開催しその意見を元に問題点やスタッフの意見や提案聞く機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています。	日々の業務の中や毎月のミーティング等では、気軽に意見や提案を出しやすい環境作りに努めている。出された意見や提案、問題点は検討し運営やケアに反映させている。外国人の職員には、管理者が常に目配り気配りをして、良好なコミュニケーションが図れるようにサポートをしている。法人によるストレスチェックや年2回管理者と面談する機会を設け職場環境や業務改善などに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状態を把握し、公平に判断し各自の向上に努めて印す。また時間外については、必要に応じて給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会や施設内の勉強会を開催し、個々に参加する機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加をする機会を設けサービスの向上に努めています。他に南東部GH交流会に加入し同業者と交流を図り相互訪問や勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間もご家族様が安心していただけるように十分な説明を行うとともに、ご家族様やご本人様の話に耳を傾けスタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様にとって、何が今必要なのかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居までの生活リズムを崩さないように、一人ひとりの人間性や性格に配慮し、同じ目線で話し、日常生活の営みの中で会話等を通じ教わることもあり共に暮らしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室や衣類などご本人様に馴染みの品物等を用意していただけるよう支援し、昔からの馴染みの方々との関係も途切れないように支援し安心して生活していただけるように支援しています。コロナ禍により面会を中止したり時間、人数制限させて頂いています	入居者の希望で家族と電話で話し関係の継続に努めたり、日々の暮らしの中で昔の出来事や懐かしい場所などの話をして懐かしむなど関係性が途切れないようにしている。日常の家事仕事では洗濯干しや洗濯たみ、趣味のカラオケやCDを掛けて歌を口ずさむなどの継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う利用者様同士テーブルに集うよう配慮し孤立してしまう利用者様には、スタッフが1対1で対応し、月に一つレクリエーションの一貫で、作品を共同で作リコミュニケーションがとれるように援助しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ連絡を取り合い管家を大切に相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で訴えや意向に耳を傾け、把握に努め意思表示が困難な方に関しては表情や日頃の状況をスタッフ間で話し合い本人の意向にそえるよう努めています。	日々の暮らしの中では傾聴に心掛け、表情、動きなどにより思いや希望、意向を把握し、記録に残して職員間で話し合い共有しながらケアに活かしている。また、ゆっくり話せる時にはスキンシップに心掛け語り掛けるようにしている。思いの表出が困難な方には家族の協力を得たり、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェイスシートやサマリーを活用し、ご家族様面会時等にも話を伺う機会を設け把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や申し送り、介護記録を活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフにケアプランの担当になってもらいご本人様、ご家族様の意見・意思を参考に介護計画に反映できるよう定期的に支援専門員及び計画作成者を交え話し合いを持ち支援計画を作成しています。	月1度のミーティングと3か月に1度モニタリング、6か月毎にプランの見直しを行っている。状態変化によりその都度見直しをしている。ケアチェック要約表を活用し評価し本人に寄り添った計画書の作成にあたっている。医師・歯科医からの意見もプランに反映させている。	計画した計画書が適正に実施されているのか、目標が達成されているのかなど変更すべき点の評価や確認が出来るように、モニタリングシートや課題整理総括表を活用し、適正な計画書の作成と職員の支援意識向上に繋げることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有しミーティング等で話し合いケアの実践に活かしながら介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいき支援センター等の協力の下、その時々々の状況で社会資源を活用し、サービスを支援していけるようにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物先や外出先を決め外出の機会を増やし地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療や体調変化に応じて随時病院受診、夜間急変時等24時間対応していただき、ご本人様やご家族様に安心していただけるよう支援しています。	入居者や家族の希望により全員が提携医をかかりつけ医としている。月2回の内科、外科、皮膚科、歯科の訪問診療があり、提携医の看護師や訪問看護師が連携し指示や支援が得られている。また、体調に変化があった場合や緊急時等は24時間対応で適切な医療が受けられるよう支援している。眼科や他の専門医の受診は家族対応としているが、受診結果は申し送り等で周知し、漏れない支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護により健康管理と現状把握を行い随時ゆうファミリークリニックの看護師、訪問看護師と連携を図り24時間適切な指示支援を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換や相談はは密に行うよう努め、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合には、医師、看護師ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフ間で状況を共有し、共に支援に取り組んでいます。	入居時に重度化や終末期のあり方について事業所の方針を説明し同意を得ている。状況が変化した場合は早い段階から家族や医師等関係者と話し合い、事業所で出来ることを十分説明し方針を共有した上で支援に取り組んでいる。看取りのマニュアルを整備し研修を行い職員が安心して看取り支援に向き合えるように取り組んでいる。管理者からのその都度の声掛けや確認などメンタルケアにも配慮して支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会、年二回の避難訓練時、対応や予防について理解を深めています。事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年二回の消防訓練を実施し、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう、装置の点検、確認を行っています。	年2回、夜間帯の職員体制で避難訓練を実施している。コロナ禍で消防の立会いはできなかったが、専門業者による消防設備の点検の際には通報の仕方など指導を受けている。災害時には近隣の法人から応援が駆けつけるシステムになっている。備蓄品は、水や食料、懐中電灯など入居者と職員分を合わせ3日分準備し、法人がリスト管理をしている。BCP計画は法人と共に策定途上にある。	想定外の災害に備え、非常時の食料ばかりでなく備品として簡易トイレやラジオ、アルミシートなど何が必要になるのか職員で話し合い、備えていくことを願いたい。また、備品もリスト管理し、全職員に保管場所等の周知し、緊急時に即座に対応できるよう整えられることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ち、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、スタッフ間で注意しあいながら対応しています。時には方言等を交えながら親近感を持っていただける用、対応しています。	「人生の先輩」として尊重し、入居者の誇りやプライバシーを損なわないような言葉かけに留意している。職員同士大声で情報を交わしたり、親しさと馴れ馴れしさの違いに留意しながらケアに努めている。入居者の生活歴や心身の状況に応じて方言を交えたり、その方にとって心地よい呼び名で対応することも容認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望に沿えるよう援助しています。また言葉ではうまく表現できない利用者様に対しては、表現等で察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースにあわせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態や気候にあわせて、好みの服装を選んだり、本人の代わりに支援しています。訪問美容師の方に2ヶ月に1回好みの髪型に整えていただいたり、馴染みの化粧品を用意していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的な介助支援にならないよう、本人の好き嫌いや意欲に配慮し、一人ひとりのペースにあわせて召し上がっていただけるように支援しています。可能な利用者様には盛りつけや片付けを手伝って頂くなどの支援に努めています	法人の栄養士により栄養バランスの取れた献立で提供している。セントラルキッチンより真空パックで届けられた食材を事業所で温めたり揚げたりして盛り付けを行い、主食と汁物は手作りをしている。献立は2か月に1回給食会議で検討され、入居者の好みや苦手、嚥下能力等を検討し、彩りが損なわれないよう配慮して提供している。入居者は保有能力に合わせてお茶つきや食器拭きなど職員と一緒にしている。コロナ禍の中、食事に楽しみが持てるように行事食や希望を取り入れたおやつ作りなどの支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態での摂取を行い食事量水分量は記録し、把握を行い、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行って頂きながら、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者様の状態に合わせ、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。また週1回の訪問歯科医、歯科衛生士によるケア、受診による口腔衛生を行って頂きながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす利用の方でも、自走や立位など自立に向けた支援を行っています。また夜間もポータブルトイレや安眠できるようパッド種類も随時検討しながら支援しています。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、表情や動きなどから察知してさりげない声掛けや誘導に努めている。車いすの方も自立に向けた支援に努め、昼間は出来るだけトイレでの排泄に努めている。夜間は睡眠を優先しポータブルトイレやパット類の検討を進めながら支援をしている。便秘予防には体操や運動、食材や水分摂取などを工夫し、なるべく薬に頼らない自然排便を心がけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、一日2回のラジオ体操や天候に合わせた散歩等を実施したり乳製品をとるように心がけ、状況に応じて医師の指示の元下剤等の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立したかたは、ほぼ毎日介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。入浴できない方には、定期的に清拭を実施しております。また季節感を出すためにゆず湯を楽しんでいただいております。	介助の必要な方の入浴は週2回で午後を基本とし、自立した方は希望により毎日でも対応している。湯はかけ流しで清潔を保ち、好みの湯温でゆっくり入浴できる支援をしている。2人介助や同性介助に対応したり、冬季はヒートショック防止に配慮している。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤で季節や香りを楽しむこともある。入浴拒否の方には声のかけ方を工夫したり、時間や日にちを考慮するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムにあわせて、日中の活動量を調整し、居室での休憩時間を確保し、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて医師と相談し入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年二回の合同行事、花見や散歩など外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、利用者様の体調に合わせ、外出の機会を設け支援を行い、ご家族様の参加も呼びかけています。	近所の公園や神社、花見など四季を感じられる外出に心がけている。車に乗りドライブに行く事で気分転換を図る楽しみに繋げるようにしている。最近は家族と公園に散歩へ行ったり、外食へ出かける方もいる。観葉植物への水やりは日課となっている。コロナ禍以前の状態へ戻せるように取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立て替えであり利用者様に応じて、そのとき所持して頂き、買い物の援助を行い、利用者様の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了承のもと電話対応、手紙のやり取りは出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地のよい空間作りを大切にしながら、生活して頂けるよう工夫に努めています。	各ユニットの居間と居室はそれぞれ階が分かれており、入居者はエレベーターを利用しながら自由に居間と居室を行き来している。清潔感のある居間には、職員と共に作成した季節が感じられる作品が壁面などに飾られている。共用空間は空調が整えられ、臭いや眩しさにも配慮され静かでくつろげる場所となっている。入居者はソファでテレビを観たり新聞を読んだりゆったり自由な時間を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の思い通りに穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気軽に行き来出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのもの、写真や馴染みの物などを飾るなど工夫し、居心地のよい部屋作りに配慮しています。	ベット、エアコン、レースカーテン、クローゼットは備え付けとなっている。入所時には使い慣れた物を持参してもらっている。部屋には自作品や趣味の日本舞踊の写真飾っている方もいる。出来る事、やりたい事を確認しながら居心地の良い部屋作りのお手伝いを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由に楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供し、一方的にならないよう、「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境作りを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫して支援しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア植田 Bユニット		
所在地	愛知県名古屋市長区植田1丁目1807		
自己評価作成日	令和5年10月7日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2371601150-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2371601150-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和5年11月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ1人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声がけをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように生活空間づくりと環境を整え四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接するゆうファミリアクリニックとの連携を密に取り24時間体制で安心して頂けるよう健康管理を行っています。口腔面でもワイワイデンタルクリニックの医師、歯科衛生士と連携し口腔ケア及び維持管理を行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

マンションや戸建て住宅が建ち並び、交通の利便性もよい街中に事業所が位置し、開設以来18年を迎える。道を隔て法人本部と法人の医療機関がある。鉄筋4階建てのホームは2ユニットで、1階と4階に各ユニットのリビングダイニングがあり、2階と3階が居室となっている。入居者はエレベーターを自由に使ったり、職員に見守られながら各階を行き来し生活をしている。4階には広いベランダがあり、天気の良い日にはベランダに出て周りの景色を眺め、お茶を楽しむこともある。天気の良い日には隣接する公園へ出かけ、四季折々の木々の変化や街並みの季節の移り変わりをベンチに腰かけて眺めながら楽しんでいる。医療法人の特色を活かし24時間体制の医療提供と提携医の歯科医や歯科衛生士による口腔ケア、訪問看護、リハビリやマッサージなどで入居者の健康管理を行い、一人ひとりが出来ることややりたいことを見極め、ゆったりと楽しい生活が継続して送れるよう支援に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果 Bユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を施設内に掲示しスタッフ間に意識付け、実践に繋げています。また当施設では、個々にゆったり、のんびりとしたその人らしい生活ペースで暮らしを送れるように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだですが、少しずつ散歩や買い物、地域の行事にも参加し、施設だけの生活にならないように、交流を図っています。コロナ禍にて思うように現状出かける事が少なくなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記を実践し、少しずつ声をかけてくださる人や関心を示してくださる人も増えてきました。今後は施設内の行事等を通じもっと地域との関わりを深めていけるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族様利用者様からの意見や要望反映できるように努めています。いきいき支援センターの職員にも参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に生かせるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との連携の元、相談、指導等を受けながら、実情やサービスの取り組み、改善点に関しても協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しておりますが、状況に合わせ解錠しています。身体面では利用者様の安全を考慮しご家族様の同意を得た上で最小限で行い、日々の業務のなかで話し合い安全なケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに乗っ取りスタッフ間で互いに注意を払い、業務に当たりコミュニケーションを大切にし、ミーティングや法人の勉強会で学ぶ機会を設け予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等が研修にいき、必要に応じて支援していけるようにしています。法人での勉強会を通して、職員一人ひとり理解し支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び支援専門員より、当施設の方針や内容等について十分説明し納得していただいた上で、契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎の運営推進会議の開催時や面会時等にご家族様からの意見や要望を伺う機会をもうけ運営に活かしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングや臨時のミーティングを開催しその意見を元に問題点やスタッフの意見や提案聞く機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状態を把握し、公平に判断し各自の向上に努めて印す。また時間外については、必要に応じ給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会や施設内の勉強会を開催し、個々に参加する機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加をする機会を設けサービスの向上に努めています。他に南東部GH交流会に加入し同業者と交流を図り相互訪問や勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間もご家族様が安心していただけるように十分な説明を行うとともに、ご家族様やご本人様の話に耳を傾けスタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様にとって、何が今必要なのかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居までの生活リズムを崩さないように、一人ひとりの人間性や性格に配慮し、同じ目線で話をし、日常生活の営みの中で会話等を通じ教わることもあり共に暮らしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室や衣類などご本人様に馴染みの品物等を用意していただけるよう支援し、昔からの馴染みの方々との関係も途切れないように支援し安心して生活していただけるように支援しています。コロナ禍により面会を中止したり、時間、人数制限させて頂いています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う利用者様同士テーブルに集うよう配慮し孤立してしまう利用者様には、スタッフが1対1で対応し、月一つレクリエーションの一貫で、作品を共同で作リコミュニケーションがとれるように援助しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ連絡を取り合い管家を大切にし相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で訴えや意向に耳を傾け、把握に努め意思表示が困難な方に関しては表情や日頃の状況をスタッフ間で話し合い本人の意向にそえるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェイスシートやサマリーを活用し、ご家族様面会時等にも話を伺う機会を設け把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や申し送り、介護記録を活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフにケアプランの担当になってもらいご本人様、ご家族様の意見・意思を参考に介護計画に反映できるよう定期的に支援専門員及び計画作成者を交え話し合いを持ち支援計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有しミーティング等で話し合いケアの実践に活かしながら介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいき支援センター等の協力の下、その時々状況で社会資源を活用し、サービスを支援していけるようにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物先や外出先を決め外出の機会を増やし地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療や体調変化に応じて随時病院受診、夜間急変時等24時間対応していただき、ご本人様やご家族様に安心していただけるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護により健康管理と現状把握を行い随時ゆうファミリアクリニックの看護師、訪問看護師と連携を図り24時間適切な指示支援を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換や相談はは密に行うよう努め、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合には、医師、看護師ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフ間で状況を共有し、共に支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会、年二回の避難訓練時、対応や予防について理解を深めています。事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年二回の消防訓練を実施し、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう、装置の点検、確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ち、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、スタッフ間で注意しながら対応しています。時には方言等を交えながら親近感を持っていただける用、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望に沿えるよう援助しています。また言葉ではうまく表現できない利用者様に対しては、表現等で察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースにあわせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態や気候にあわせて、好みの服装を選んだり、本人の代わりに支援しています。訪問美容師の方に2ヶ月に1回好みの髪型に整えていただいたり、馴染みの化粧品を用意していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的な介助支援にならないよう、本人の好き嫌いや意欲に配慮し、一人ひとりのペースにあわせて召し上がっていただけるように支援しています。可能な利用者様には盛りつけや片付けを手伝って頂くなどの支援に努めています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態での摂取を行い食事量水分量は記録し、把握を行い、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行って頂きながら、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者様の状態に合わせ、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。また週1回の訪問歯科医、歯科衛生士によるケア、受診による口腔衛生を行って頂きながら支援に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす利用の方でも、自走や立位など自立に向けた支援を行っています、また夜間もポータブルトイレや安眠できるようパッド種類も随時検討しながら支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、一日2回のラジオ体操や天候に合わせた散歩等を実施したり乳製品をとるように心がけ、状況に応じて医師の指示の元下剤等の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立したかたは、ほぼ毎日介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。入浴できない方には、定期的に清拭を実施しております。また季節感を出すためにゆず湯を楽しんでいただいております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムにあわせて、日中の活動量を調整し、居室での休憩時間を確保し、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて医師と相談し入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年二回の合同行事、花見や散歩など外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、利用者様の体調に合わせて、外出の機会を設け支援を行い、ご家族様の参加も呼びかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立て替えてあり利用者様に応じて、そのとき所持して頂き、買い物の援助を行い、利用者様の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了承のもと電話対応、手紙のやり取りは出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地のよい空間作りを大切にしながら、生活して頂けるよう工夫に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の思い通りに穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気軽に行き来出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのもので、写真や馴染みの物などを飾るなど工夫し、居心地のよい部屋作りに配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由に楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供し、一方的にならないよう、「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境作りを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫して支援しています。		